

晟雄氏の胸像、いのちの灯が移設される



移設した胸像と「いのちの灯」記念碑



サンセット(夕焼け・日没の意)コスモス



豪雪モデル住宅第一号

資料館の村長花つじ「サンセット」コスモスも朱色が鮮やかになり見ごろをむかえております。沢内病院の駐車場整備の工事に伴い、深澤村長の胸像と通称「いのちの灯」老人医療診療発祥の地(記念碑が資料館正面右側に移設されました。胸像の移設は今回で4回目です。昭和41年8月沢内村民6千人の浄財により建立され、製作者は盛岡短期大学教授吉川保正さんであります。

当資料館は昭和38年に豪雪モデル住宅第一号として加藤邦夫元沢内病院長が自らデザインし、設計した建物であります。昭和41年当時胸像は元々の建物の前面にあり、44年の年月を経過してつじの元の「安住の地」に戻したいと思っております。

元の「安住の地」に移設!!

お知らせ

9/25 大船渡市リアスホール

9/19 陸前高田市ふれあいセンター

映画

「いのちの山河」上映予定!

資料館に寄付金をいただきました。
ありがとうございます。

兵庫県 宝塚母親大会

連絡会様

県外 - 286人

東京、埼玉、神奈川、愛知、千葉、兵庫、宮城、秋田、山形、静岡、大阪、鹿児島、富山、京都、茨城、福岡、青森、北海道、長野、ブラジル

県内 - 228人

盛岡、遠野、奥州、北上、金ヶ崎、滝沢、紫波、一関、矢巾、胆沢、住田、釜石、八幡平、花巻

町内 - 16人

8月の入館者は530人

三寺を観光の中心に！ ～深澤村長の一本道構想～

最近、県外からのツアーで当資料館を見学してから、浄円寺の深澤晟雄のお墓参りをするツアーが増えております。そこで「およね地蔵」も見学することになるんですが、「ここで「およね地蔵」の由来を紹介したい」と思います。

このおよね地蔵尊は、昭和38年この地に遷座したものでありますが、昭和38年は盛岡までの定期バスが確保なった年でもありません。

この路線確保と同時に深澤晟雄は交流人口を増やすことを考えての遷座であったこともうかがえます。

いわば、旧沢内村を観光地にしようとしたのではないかということなのです。昭和44年に碧祥寺博物館が開館していますが、下積み等を考慮した場合、5、6年前には構想があったものと考えられます。玉泉寺においても33観音霊場による遊歩道の整備もこの時期に行われています。

また、計画は頓挫してしまいましたが、この3寺院を一本の道路で結ぼうという計画も浮上しておりました。深澤晟雄の真意は今となってはいかほどであったか、図り知ることはできません。

地蔵尊台座の後ろ側には、「およね地蔵尊奉賛会」が深澤晟雄自筆により刻まれています。向かって右向きには浄円寺総代の石井福治氏による「開眼供養」、台座正面には南部家第44代当主南部利英氏により「およね地蔵尊」が刻まれています。

南部利英氏は靖国神社宮司であり第45代当主南部利昭氏の父として知られていますが、南部恒産を興した実業家、岩手県の公安委員、社会福祉協議会会長、スケート連盟会長などを歴任し岩手県ゆかりの人です。

「およね」が南部家に興入れたという故事により、一筆ご協力をお願いしたものであります。

昭和38年9月15日、深澤晟雄、南部利英氏を始め、多くの関係者が参列し、およね地蔵尊遷座法要が盛大かつ厳かに勤修されました。

当時、深澤村長は、3つの寺を観光の中心と考えていたのかもしれないということがうかがえます。

今、まさにそれが現実になりつつあります。いかに鋭い先見の目の持ち主であったかに驚かされる次第です。



およね地蔵尊



浄円寺本堂



深澤晟雄元村長のお墓